

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

横浜市立嶮山小学校

TEL: 902-7161,7162

FAX: 904-4254

平成 29 年 2 月 28 日

# 嶮山小通信

3 月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

校長 山口 昭代



春、3月

校長 山口昭代

弥生3月、今年度の最終月となりました。

卒業式や修了式までのかけがえのない時間を、子どもたちとともに、その成長を分かち合えるよい時間を過ごしたいと思っています。

2月22日から、6年生といっしょに給食時間を過ごす「校長室ランチミーティング」を始めました。8～9人の子どもたちが、トレイに給食をセットしたものを、丁寧にこぼさないように持って校長室まで訪れてくれます。瞳の動きまではっきりと見える距離で話をすると、子どもたちの素直さや優しさ、賢さやたくましさなどがとてもよく分かります。弾ける笑い顔も笑い声もいとおいしい。多分、校長室という空間でのこの距離は、家庭でのお母さんやお父さんや、家族と子どもたちとの距離にとっても近いものなのでしょう。明るい光が柔らかく差し込んで、教室や体育館の活気やにぎやかさや慌ただしさとは異なる環境です。

6年生は、この時間、日頃から家族が自分を見つめるまなざしや、どんな話でも面白がって笑いながら受け止めてくれる表情に包まれて、合わせ鏡のように、穏やかで透き通った、やさしいありのままの自分を表現する日常を再現しているかのようです。

そこで、ふと思いました。子どもたちのこんな姿を、担任の先生たちは見たり、感じたりしたことがあるのかな、と。

朝、教室に上がったら、健康観察、連絡帳確認、授業、給食指導、清掃指導、昼休み児童会議、午後の授業、帰りの会、下校・・・それまでの時間、休むことなく子どもたちと一緒にいます。そして、時には学習指導より多く、生活指導にかかわる聞き取りや注意や声かけで、子どもとかかわらざるを得ない一日があります。子どもは「自分だけじゃない。」「そういう気持ちではない。」と注意を聞き入れられない場合も当然あるので、指導の時間は足りません。一人の子を大切に、心に寄り添った指導でありたいと思うので、納得できるように、言葉と心を尽くして話をします。あっという間に時間が過ぎていきます。児童支援専任のかかわりに助けられながらも、子どもにはやはり「担任」との信頼関係が何より必要です。

『また、子どもたちを叱ってばかりいた。今日もまた、ゆっくりと子どもたちの話を聞いてあげられなかった。』もちろん、そんな日ばかりではないものの、そんな日があって、信念や自信が揺らぐ瞬間があるのも事実です。

子どもが好きで、子どもの成長にかかわりたくて、いつでも子どもと一緒にいたくて「先生」を志した後輩たちに、校長としての私の務めは、<先生たちが子どもたちとしっかり向き合って子ども理解を深め、一人ひとりの心とつながり合うこと>の実現だと思っています。

嶮山小学校の子どもたちの健やかな成長のために、温かく愛情をもって支えてくださった保護者のみなさま、地域のみなさま、関係機関のみなさま、一年間ありがとうございました。